

大阪・沖縄・アジア

I. 釜ヶ崎レポート	4
II. 文化住宅地区レポート	10
III. 沖縄関係文献要約レポート	13
IV. 大阪市大正区での聞き取りレポート	33
V. 尼崎市戸ノ内での聞き取りレポート	77

大阪市立大学 全学共通教育 総合教育科目

平成 11(1999)年度

アジアの地域と文化 演習

(文学部 水内俊雄担当)

目次

- 0 はじめに (2)

- I 釜ヶ崎レポート (4)
 - 1 谷 陽 ■2 金学軍 ■3 竹下善博 ■4 山崎公義 ■5 宮脇秀文
 - 6 金尚奎 ■7 花房修吾

- II 文化住宅地区レポート (10)
 - 1 山田理絵子 ■2 足立丈英 ■3 竹下善博 ■4 金尚奎

- III 沖縄関係文献要約レポート (13)
 - 1 佐原一哉 (足立丈英) (13) ■2 真栄田義弘 (竹下善博) (16)
 - 3 木村周広 (金尚奎) (17) ■4 木村周広 (金学軍) (19)
 - 5 宮脇幸夫 (山崎公義) (20) ■6 上江洲 久 (谷 陽) (23)
 - 7 金城宗和 (宮脇秀文) (23) ■8 金城宗和 (花房修吾) (25)
 - 9 朝日新聞 (山田理絵子) (27) ■10 枝川公一 (山田理絵子) (29)
 - 11 服部良一 (足立丈英) (31)

- IV 大阪市大正区での聞き取り (33)
 - 1 谷 陽・金学軍・宮脇秀文 ■2 足立丈英 ■3 山田理絵子 ■4 金尚奎
 - 5 戦前1930年代半ばの沖縄出身者集住地区の状況 (38)
 - 6 戦前期の朝鮮人集住地区との関係について (43)
 - 7 戦前の不良住宅地区調査による当時の大正区泉尾地区の状況 (43)
 - 8 戦後の沖縄出身者集住地区の状況 (46)
 - 9 環境改善地区調査・土地区画整理事業・住宅改良事業 (49)
 - 10 大正区平尾本通商店街にて (56)
 - 11 セレブレーション・コンサート「寄らてい、唄てい、遊しばな」 (58)
 - 12 関西沖縄文庫の三線会について (60)
 - ＜地形図，地図，空中写真，住宅地図＞ (61)

- V 尼崎市戸ノ内での聞き取り (77)
 - 1 戸ノ内 (77) ■2 戸ノ内 浜西老人クラブとの交流会 (79)
 - 3 沖縄県人会園田支部との交流会での聞き取り (82) ■4 交流会資料 (85)
 - 5 戸ノ内を紹介した新聞記事から (88)
 - 6 地図からみた戸ノ内の形成 (90) ■7 沖縄における高校野球と沖縄県人会 (91)
 - ＜地形図，住宅地図＞ (96)

0 はじめに

総合教育科目「アジアの地域と文化」演習を受け持って2年目になる。昨年度から導入され、共通教育充実のひとつの目玉であり、「反省会」も用意されているこの高学年向け演習科目の授業内容は周囲から期待されていた。しかし昨年は手探りで、インターネットを利用した演習としたのだが、正直なところ失敗した演習に終わってしまった。アジアをどのようにわれわれは理解をするかといったあまりに広漠としたテーマに対して、今年度は五感を働かせてこの大阪で体得しようとの戦術に切り替え、それを徹底したフィールドワークに求めることにした。

フィールドワークは、小学生の生活の時間にみられるような「まちあるき」などと発想もスタイルもほぼかわりのない、まあ子どもでもできることである。しかし、大学生には実に新鮮に受け止められる。それは私がかつて担当した共通教育科目の「現代の地理学」や「地理学と大阪」で証明されてきたことであつた。このフィールドワークをまとめて活字化された膨大なレポートを持っているが、今回は少人数ということもあり、内容はさておきレポートをまとめて冊子にしてみることにした。この冊子の大部分は、結局関西の沖縄出身者に関することに占められた。結論からいえば、アジアを沖縄に求めたことになった。

レポートにはしなかったが、演習の最初である10月に行なつた堺市の旧市街地巡検を経て都市の住宅事情を垣間見た後、釜ヶ崎地区、文化住宅集中地区での巡検で、各自レポートを提出、お互いに意見を交わした。レポートにある通り、各自何とかアジアにひきつけて書こうとしたことが見て取れよう。しかし日本の住宅事情に絞り気味のテーマでアジアと大阪の関係を深めることはわかには無理ということになり、学生にとってはほぼ無の知識、情報の中で、沖縄と大阪の関係ということに照準をあて、12月にあわてて関連文献だけを読み、いきなり大正区に出向き聞き取りをしたのが1月はじめであつた。それからわずか1ヶ月ほどの間だけであつたが、文学部の同僚の橋爪紳也さんが昨年6月の文学部地理学教室の新歓巡検に折に学生と訪れた尼崎市の戸ノ内地区に、あらためて地理学教室の院生や学生も加わり、いっしょに聞き取りを行なつた。それが大正区の聞き取りとあわせて、この冊子の中心部分となつた。大正区に関しては地理学教室で修士論文を作成していたウクライナからの留学生、ヴォフク・ヴァディム君の聞き取り成果を大いに参考にした。

地域の形成のプロセスを、単なる聞き取りの積み重ねだけでなく、そこに働いたはずの政治や経済の力をあぶり出し、郷土史から地域史・地誌の飛翔をと常に考えていたが、大正区では、いわゆる「沖縄スラム」の「クリアランス」、世紀のかさ上げ事業と土地区画整理、尼崎では特飲街、沖縄出身者集住、同和地区と現在の住環境改善事業などが、はっきりした因果関係が示されないまま、記憶が忘却され、そして語る人が消えて行くという状況にあることがひどく心打たれた。このことが聞き取りをした方へのお礼として、そして今後の研究の深化への第一歩であると思い、急遽冊子にすることを思い立った次第である。特に尼崎市戸ノ内地区での老人会の歓待は冊子にも記載した通りであるが、何とか若いモンにかけられた「期待」に答えねばと痛切に感じた。もちろんアジアと大阪というスタンスから沖縄ということに焦点が当てられたが、私たちの関心は沖縄だけに止まるものではない。私を含めて個人の歴史がすべて、地域形成の一幕となっていることを常に自覚しておくこと、そして大学にいるわれわれにとってそれが重要な仕事で

あることを、今後とも学生と共に考えて足がかりにしてゆきたい。このことは聞き取りでお世話になった大正区の平尾商店街副理事長の山口さんの願い、文中をごらんいただければわかるが、それにも通じるのではないかと考えている。

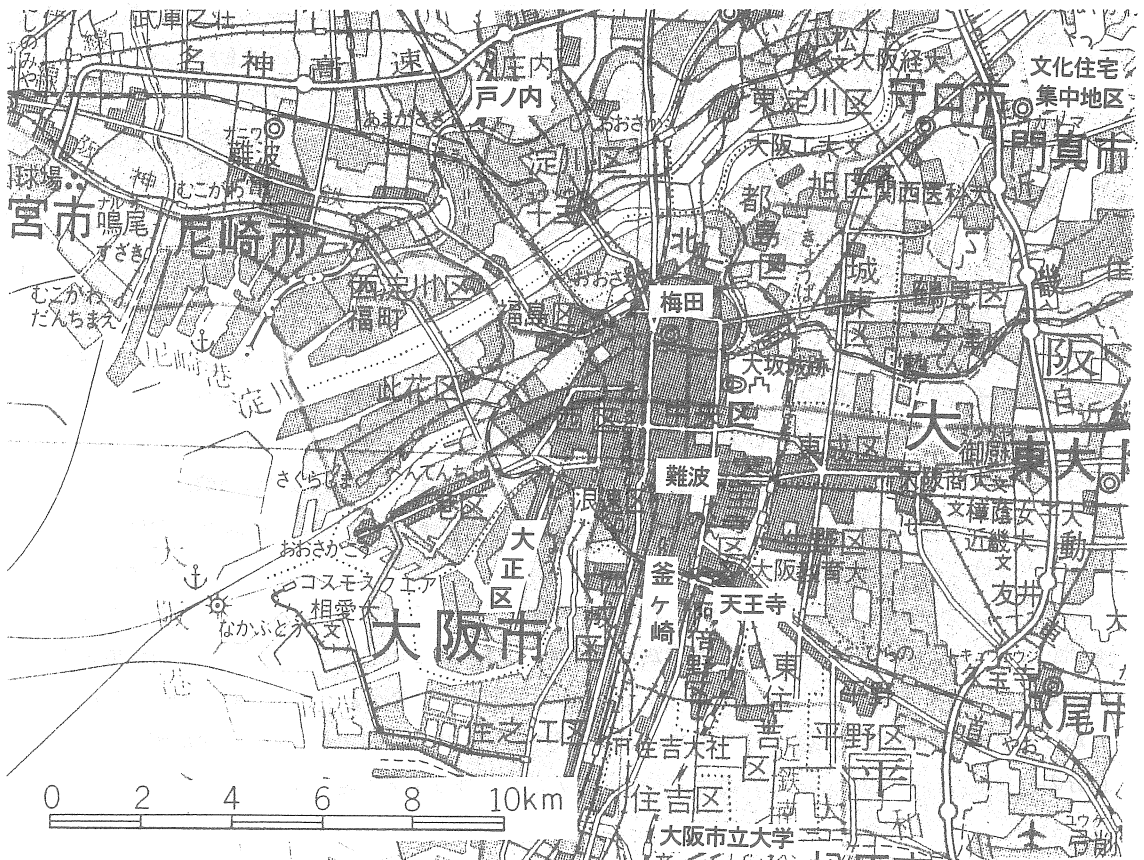
と思わず、共通教育から大学全体の教育まで思い描いてしまったが、今回の演習にはやはり受講してくれた学生の諸氏に大いに感謝したい。学年のバランスもよく、上回生らしい年季と、3人のしっかりした留学生、個性ある「日本」人学生たち、1時間目の演習ではじまりが30分遅れることだけをのぞき、楽しい演習であった。というか私のかなり強引な、自己満足的演習だったかもしれないが、ご笑覧いただければ幸いである。

(水内俊雄)

<受講生>

谷陽(経4)、金学軍(経4)、宮脇秀文(経4)、山田理絵子(文4)、竹下善博(経3)、山川真貴子(文3)、花房修吾(理3)、山崎公義(工3)、金尚奎(工2)、足立丈英(工1)、坂井康広(T.A.文院D1)、ヴォフク・ヴァディム(文院M2)、松井美枝(文4)、朝田良輝(文3)、辻本雄紀(文3)、稲垣吉裕(文3)

(ヴァディム以下4名は文学部地理学教室)



▲ 本調査対象地区の分布 ▲